

10月4日（火）

ファッション学校交流視察

今回の大阪市会代表団のミラノ市訪問に合わせて、両市を代表するファッション学校が合同で展示会を開催することになり、その様子を視察した。会場となったパラッツォ・モランド美術館は16世紀に建てられた屋敷で、現在はミラノ市に寄贈されており、2階を中心に美術品が多く展示されているほか、頻繁に芸術関係の特別展が行われる施設であり、今回の展示会の趣旨に賛同したミラノ市が会場として無償提供を行った。

会場に到着後、まず上田安子服飾専門学校の田島校長より御挨拶をいただき、続いてミラノ市近現代美術館担当のマラニエッロ部長、雨宮総領事、高橋副市長、大橋市会議長からそれぞれ挨拶を行った。



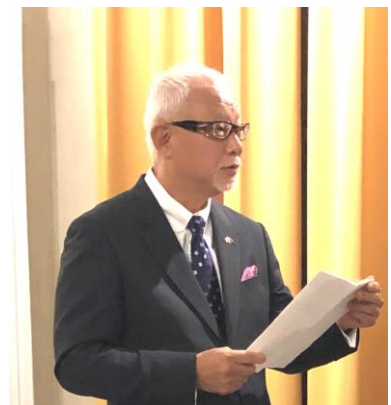
会場のパラッツォ・モランド

【上田安子服飾専門学校 田島校長 挨拶要旨】

このような会が開催されることを大変うれしく思う。実現に御尽力いただいた両市の関係者の皆様に心より感謝している。

先般、コモ市において東大先端研究所、ミラノ工科大学及びミラノ大学の研究会が開催され、世界でも有数の三大学がエネルギーや生命、環境、医療といった多様な分野で様々な最先端技術を融合する触媒として、イタリアの真骨頂である芸術とデザイン力を利用し、様々な研究の推進を目指すこととなった。

芸術とデザイン、これは世界をリードするイタリアファッションのキーワードである。両者が凝縮されたファッションは、人間の営みに大きな付加価値を与えている。今回の展示のテーマはハンドメイドであり、日本、イタリアの両国の文化や経済を特徴づける職人芸や、匠の技へのこだわりが、それぞれの作品にどのように表現されているのかを、展示を見ながらじっくりと探していきたい。



田島校長 挨拶

【マラニエッロ ミラノ市近現代美術館担当部長 挨拶要旨】



マラニエッロ部長
挨拶

本日はこのような場に参加させていただき、大変光栄である。

モード及びファッションというのは、我々の生活で非常に重要な役割を担っているので、今日のこの会がミラノ市と大阪市にとって今後重要なものになると考えている。同時に若い世代の方たちが、この場で活躍できるということも非常に重要だと考えている。

会場となっているこの建物は、よくファッション美術館とも言われているが、モードだけではなく歴史的な価値からミラノの芸術の根本になっており、展示会はもとよりこの美術館のすばらしさを肌で感じていただけることと思う。

【高橋副市長 挨拶要旨】

このたびは歴史あるパラッツォ・モランドにおいて、上田安子服飾専門学校、マランゴーニ学院両校のファッション交流について視察できることをうれしく思う。

本展示会の開催にあたり、これまで多大な御尽力をいただいた皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

本市とミラノ市は1981年の姉妹都市提携以来、幅広い分野において交流し、2019年には世界一のデザインの祭典「ミラノ・デザイン・ウィーク」の連動企画である「ミラノジュニアス 2019」が開催され、選抜された学生の作品が大阪とミラノの両市で展示された。また、来月11月3日から「ファッション・グラドゥエイト・イタリア 2022」が開催される。今回初めて姉妹都市のミラノ市から招請を受け、上田安子服飾専門学校を含む5校の生徒が参加する予定となっている。

このように、姉妹都市交流は行政だけではなしえることはできない。ファッションの分野で両校が交流を深めることは、日本とイタリア、大阪とミラノの相互理解に多大な御貢献をいただくものであり、若い人たちが国際的な絆を築くことで、多様な文化、価値観を理解しあい、お互いを認め合うことにつながるものであると考える。

そのような姉妹都市交流を草の根で実践いただいている両校の関係者の皆様に感謝と敬意を表する。



高橋副市長 挨拶

【大橋市会議長 挨拶要旨】



大橋議長 挨拶

このたび、大阪とミラノの姉妹都市提携 40 周年を記念して、ミラノ市を訪問できたことを大変光栄に思う。また、こうして上田安子服飾専門学校及びマランゴーニ学院両校のファッション交流イベントを視察させていただける機会を得られたことは大変嬉しく、また感謝している。

ファッション分野での両校の交流は、大阪とミラノの友好関係の発展に大きく貢献いただいているものであり、両校の関係者の皆様には、改めて深く敬意と感謝の意を表する次第である。皆様のますますの御活躍と大阪とミラノの繁栄を祈念する。



両校の生徒による作品展示

続いて、マランゴーニ学院のディアナ・ムレク教員と上田安子服飾専門学校の大槻学科統括部長より、両校の学生が「Fatto a mano (ハンドメイド・ていねいなしごと)」をテーマに作成した作品の紹介があり、興味深く鑑賞した。

ミラノゆかりの風景画などの美術品が展示されているパラッツォ・モランド美術館を舞台に、ファッションの作品制作を通じて若手デザイナーが交流を深めることにより、さらなる両市の交流の発展につなげることができた。

ミラノ市の都市開発事例 視察

午後からはミラノ市の都市開発事例について視察を行った。

まず、ミラノ市役所の都市再開発局の職員の方から、都市開発事例についての説明を聴取したのちに、現地視察を行った。都市再開発局に到着後、まず高橋副市長、大橋市会議長から挨拶を行った。



ミラノ市都市再開発局 庁舎前にて

【高橋副市長 挨拶要旨】



挨拶する高橋副市長

ポルタ・ノーヴァ地区は2004年に再開発プロジェクトとして承認され、約10年をかけて整備されたと聞いている。イタリアで最も高い建築物であるユニクレディットタワーや広大な公園が整備されており、先進的な街並みを視察できることを楽しみにしている。

大阪においても現在、日本有数の鉄道ターミナル駅周辺の再開発を行っており、今回の視察をぜひ参考にしたいと考えている。

また、ミラノ市ではスマートモビリティ政策として自転車道を整備し、シェアバイクにも力を入れていると聞いている。大阪においてもメインストリートである御堂筋を車中心から人中心の道路へと空間再編を進めている。ミラノ市の先進的な取組を参考にさせていただきたい。

【大橋市会議長 挨拶要旨】

本日はお忙しい中、貴重なお時間をいただき厚く御礼申し上げます。

本日は、サステナビリティをベースに建築と自然とを融合させた素晴らしい建築物や緑豊かな公園を備えたポルタ・ノーヴァ地区、また、自転車フレンドリーなまちづくりを実施しているブエノスアイレス通りについて、意見交換の機会をいただき大変うれしく思っている。大阪でも鉄道ターミナル駅周辺の再開発が進められるとともに、自転車道路や歩行者空間の整備に取り組んでいるところである。多くのことを学ばせていただき、今後の本市の施策の参考にしていく。また、このあとの現地視察も楽しみにしている。



大橋議長 挨拶

その後、都市再開発局より説明聴取を行い、ミラノ市で進められている先端的な2つの施策について、目的、施策の詳細、現状や課題等について聴取し、本市施策の参考とするため意見交換を行った。

説明概要：

(1) Piazza Aperte ～戦略としての都市計画～について

モビリティ環境・地域発展局デメトリオ・スコペリッティ都市計画公共空間マネージャーより説明

ミラノ市で進めている自転車フレンドリーなまちづくりは、コロナ後、人と人の交流を促進するとともに持続可能なまちづくりを行うため、公共空間を車中心から人中心へ、市民の協力や理解を得ながら、道路を自転車道等にシフトする取組である。



自転車道路を中心とした都市開発について

- (2) ガリバルディ駅からレプブリカ広場、ポルタ・ノーヴァ再開発について
ミラノ市都市再開発局技術サービス課
モニカ・モシエラ課長、フランチェスコ・ベスコービ担当より説明

ポルタ・ノーヴァは、欧州各都市やイタリア各都市とミラノ市をつなぐガリバルディ駅に隣接し、再開発によりユニクレディットタワーなど斬新なオフィスビルや、高級マンションが立ち並ぶ地区である。またミラノ市で3番目に広い約9ヘクタールの広さの公園が整備されている。



ポルタ・ノーヴァ地区再開発について

＜ポルタ・ノーヴァ再開発地区＞

次に、バスでポルタ・ノーヴァ地区へ移動し現地を視察した。

公園を中心とした設計のもと、近代的でデザイン性に富んだ建築物が立ち並び、住宅、オフィス、商業施設、公共施設等が、鉄道や幹線道路及び自転車道に隣接しながら、心安らぐ持続可能な空間を形成している。



高級マンション「垂直の森」。2棟のタワーマンションで約2万本の樹木などの植物がバルコニーに植えられている。



ガウエンティ広場。噴水や池がありポルタ・ノーヴァ地区の心臓部。



左手のツインになっているビルは、ロンバルディア州の州庁。右手の zalando の広告で覆われている建物はミラノの旧市役所の一部。



高低差のある公園が建設されており、池や緑なども感じることができる地区となっている。



奥のビルはイタリアで最も高い建築であるユニクレディットタワー。



ポルタ・ノーヴァ地区の現地視察を行う一行

＜ブエノスアイレス通り自転車道路整備＞

次に、バスでブエノスアイレス通りへ移動し、現地を視察した。

ミラノ市職員のスコペリッティ氏にブエノスアイレス通りの自転車専用道路について説明を受けながら、夕方の比較的交通量が増える時間帯に、片側1車線ずつを自転車専用道としている様子を視察した。違法駐車や、縁石の有無の違い、交差点での自転車道の配置などの実際の様子を見学することができた。



【スコペリッティ氏説明概要】

コロナ前には車道や駐車スペースであったところを自転車専用道路に整備した。このプロジェクトの最初の課題は、自動車からの安全を守った上で自転車専用道路のスペースを確保することであった。最終的には、歩道を広げてその横にサイクリングロードをつくり、サイクリングロードと車道の間にブロックを置くことで解決した。縁石の脇に車が止まっているのが見えるが、これらはすべて違法駐車である。これが意味することは自転車が車の渋滞を招いているのではなく、違法駐車が車の渋滞を招いているということである。

今の時間はラッシュ時ではないが、それでもたくさんの人が自転車を使用しているということを御覧いただくことができる。

私たちの実験と考察から、結果的には交通を妨げるのは違法駐車ということがわかったので、ミラノ市としては今後、サイクリングロードをさらに広げるプロジェクトを進めていく。一番大切なのは歩道で、歩行者が通行の主役でなければならない。

ブエノスアイレス通りや裏通りを歩き、整備されたサイクリングロードや歩道を視察した。その後バスでホテルに戻り、2日目の行程を終了した。

車道の側に整備された自転車道路と歩道

